

発刊のあいさつ

浦添市教育委員会 教育長 宮城 清

浦添市教育委員会は、一九八七年度（昭和六二年度）より「琉球王国評定所文書」刊行事業を開始し、以後順調に当事業を推進しております。琉球王国近世史の研究にとつて大変貴重な史料であり、既刊は県内外にとどまらず、海外においても、琉球王国史の研究に活用されております。

浦添市は古琉球以来の歴史・文化の伝統をふまえ、「太陽とみどりにあふれた国際性ゆたかな文化都市」「教育の進展、文化の高揚をめざす都市づくり」を目指しております。古代の祭祀歌謡集『おもろさうし』にも「うらおそい」と謡われた当市は、かつての王都として栄えた時代の理想を胸に、市民の誇りと自信を培い、文化の創造と発展に寄与することを目的に、今後も市の文化事業の一環として「琉球王国評定所文書」刊行事業を推進してまいります。

今年度刊行の「琉球王国評定所文書」第十七巻には、内務省作成「旧琉球藩評定所書類目録」の通し番号で、一八〇四号・一八〇五号・一八〇六号・一八〇七号・一九二一号・一九二三号・一九二四号・一九二五号・一九二六号、以上の九文書を収録いたしました。

一八〇四号「英人より差出置候文之扣御仮屋御届」は、咸豊元年から同四年にまたがる史料で、その解題に述べられた通り、内容的には「英人」つまり当時琉球に滞在していたベツテルハイムに関する文書のみでなく、ペリーに関する文書も含まれています。一八〇五号「案書」は咸豊五年の史料であり、これまで既刊に収録された一連の案書類の一つです。一八〇六号「廻文」は咸豊五年から同六年にかかる史料であり、王府の各機関から出された通達文書の集成です。

一八〇七号「諸外国と琉球と条約并往復書類」は道光三〇年から咸豊六年までの外国との条約とその関連文書です。一九二二号「異国人へ返答之心得」は道光二七年の史料であり、異国船・異国人に対する応答のマニユアルともいえるべきものです。一九二三号「亜国大火輪船来着書類」は咸豊三年から同四年までの史料であり、主にボード事件について記されています。一九二四号「異国一件館内并御仮屋方往復之書付写」は咸豊三年、一九二六号「英人一件書類」は道光二八年、ともにベッテルハイム関係史料です。一九二五号「異国一件書類」は咸豊四年の史料であり、琉米修好条約締結後の王府と薩摩のやりとりをまとめたものです。これらの史料が多くの市民をはじめ、県内外、海外の研究者の間で活用されることを願います。

最後に、本事業のために貴重な史料を提供し、また、刊行について御快諾下さいました、東京大学法学部法制史資料室ならびに国立公文書館の関係各位、また史料の筆耕解説にご協力下さいました研究者各位に深く感謝申し上げます、発刊の言葉といたします。

二〇〇一年（平成一三年）三月吉日